

徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置認可申請書

学校法人 村崎学園

基本計画書

基 本 計 画

事 項	記 入 欄	備 考						
計 画 の 区 分	学部・学科の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者	ガッコウジツシムギガク 学校法人 村崎学園							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	トクシマブンリダク 徳島文理大学(Tokushima Bunri University)							
大 学 本 部 の 位 置	徳島県徳島市寺島本町東一丁目八番地							
大 学 の 目 的	本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 目 的	「自立協同」の建学精神のもとで、生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い看護職員を育成することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 概 要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所 在 地
	人間福祉学部 (Faculty of Human Welfare)	年	人	年次 人	人	学士 (看護学)	平成20年4月 第1年次	徳島県徳島市山城町西 浜傍示180番地
	看護学科 (Department of Nursing)	4	80	-	320			
計	4	80	-	320				
同一設置者内における 変更状況(定員の移行、 名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年4月、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科(20)定員減。 ・平成20年4月、徳島文理大学工学部機械電子工学科(20)定員減。 ・平成20年4月、徳島文理大学工学部情報システム工学科(20)定員減。 ・平成20年4月、徳島文理大学工学部ナノ物質工学科(20)定員減。 ・平成20年4月、徳島文理大学短期大学部生活科学科生活科学専攻(40)定員減。 ・平成20年4月、徳島文理大学文学部「英米言語文化学科」「英語英米文化学科」に名称変更予定。 ・平成20年4月、徳島文理大学工学部「機械電子工学科」「機械創造工学科」に名称変更予定。 ・平成20年4月、徳島文理大学工学部「情報システム工学科」「電子情報工学科」に名称変更予定。 ・平成20年度より徳島文理大学文学部コミュニケーション学科を学生募集停止。 ・平成20年度より徳島文理大学工学部環境システム工学科を学生募集停止。 ・平成20年4月、徳島文理大学「人間福祉学部」「保健福祉学部」に名称変更予定(平成19年4月届出済み) 							別途届出 別途届出 別途届出 別途届出 別途届出 別途届出 別途届出 別途報告 別途報告
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	人間福祉学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計			
		83 科目	17 科目	13 科目	113 科目	124 単位		

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文 科学 関係 科目	倫理学 A	1・2		2											
	文学 A	1・2		2											
	歴史学 A	1・2		2											
	音楽 A	1・2		2											
	美術 A	1・2		2											
	小計 (5 科目)	-	0	10	0			-	0	0	0	0	0	0	
社会 科学 関係 科目	法学 A	1・2		2											
	心理学 A	1・2		2											
	社会学 A	1・2		2											
	教育学 A	1・2		2											
	経済学 A	1・2		2											
	情報処理	1・2		2											
	小計 (6 科目)	-	0	12	0			-	0	0	0	0	0	0	
基礎 分野 自然 科学 関係 科目	数学 A	1・2		2											
	物理学 A	1・2		2											
	化学 A	1・2		2					1						
	応用生物学 A	1・2		2					1						
	小計 (4 科目)	-	0	8	0			-	2	0	0	0	0	0	
体育 ・ス ポーツ 科目	体育・スポーツ A	1・2		2											
	体育・スポーツ B	1・2		2											
	小計 (2 科目)	-	0	4	0			-	0	0	0	0	0	0	
外国 語科 目	英語 A	1・2		2											
	英語 B	1・2		2											
	英語 C	1・2		2											
	英語 D	1・2		2											
	独語	1・2		2											
	仏語	1・2		2											
	伊語	1・2		2											
小計 (7 科目)	-	0	14	0			-	0	0	0	0	0	0		
総合 科目	総合科目	1・2	1	0	0										
	小計 (1 科目)	-	1	0	0			-							

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎分野	人の仕組みと機能	形態機能論 (呼吸・循環器官系)	1	2											
		形態機能論 (神経・生殖器官系)	1	1											
		形態機能論 (消化・内分泌器官系)	1	2						1					
		形態機能論 (運動・感覚器官系)	1	1						1					
		小計(4科目)	-	6	0	0				1	0	0	0	0	
		病理学	1	1						1					
		感染学	2	1						1					
		疾病論 (呼吸・循環器官系疾病)	1	2						1					
		疾病論 (神経・生殖器官系疾病)	1	1						1					
		疾病論 (消化・内分泌器官系疾病)	2	2						1					
	疾病論 (運動・感覚器官系疾病)	2	1						1						
	生化学	1	1												
	薬理学	2	1						1						
	栄養学	2	1												
	免疫学	2	1						1						
	小計(10科目)	-	12	0	0				3	0	0	0	0		
	基礎総合科目	公衆衛生学	1	2					1						
		情報処理・統計学	2	1											
		保健福祉行政概論	2	2											
		学校健康保健論	2	1											
		産業健康保健論	2	1											
		情報処理・統計学演習	2		1										
		ボランティア活動論	1		1										
	小計(7科目)	-	7	2	0				1	0	0	0	0		
専門分野	基礎看護学	看護学概論 (総論)	1	2					1						
		看護学概論 (健康概念)	2	1					1						
		看護技術 (診断)	1	1							1				
		看護技術 (内科的治療)	2	1							1				
		看護技術 (外科的治療)	2	1					1						
		看護理論	1	1											
		看護過程論	1	1					1						
		ヘルスアセスメント論	2	1							1				
		看護栄養管理論	3		1				1						
		援助的人間関係論	2	1											
		基礎看護学実習 (触れ合い)	1	1					1		1			5	
		基礎看護学実習 (援助)	2	2					1		1			5	
		小計(12科目)	-	13	1	0				1	0	1	0	5	
		在宅・地域看護学	在宅看護学概論	1	2							1			
			在宅看護援助論	3	2							1			
			在宅看護学実習	4	2					1		1			1
			地域看護学概論	1	2							1			
			地域看護援助論	3	2							1			
			ケアマネジメント論	3		2									
		ケアシステム論	4		2										
		家族看護論	4	2											
		地域看護学実習	4	4					1		1			1	
	小計(9科目)	-	16	4	0				1	0	1	0	1		
	精神看護学	精神看護学概論	2	2											
		精神衛生保健論	2	2											
		精神看護学実習	3	2							1			1	
	小計(3科目)	-	6	0	0				0	0	1	0	1		
	成人看護学	成人看護学概論	1	2					1						
		急性期看護援助論	2	2					1						
		慢性期看護援助論	2	2					1						
		周手術期ケア論	2		1						1				
		急性期看護学実習	3	2					1		1	1		3	
		慢性期看護学実習	3	4					1		1	1		3	
	小計(6科目)	-	12	1	0				1	0	1	1	3		
	老年看護学	高齢者看護学概論	1	2					1						
		高齢者看護援助論	2	2							1				
		高齢者看護学実習	3	4					1		1	1		3	
	小計(3科目)	-	8	0	0				1	0	1	1	3		

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	母性看護学概論	1	2								1				
	母性看護援助論	2	2							1					
	母性看護学実習	3	2							1	2	1	1		
	小計(3科目)	-	6	0	0				0	1	2	1	1		
	助産看護学	助産学総論	2	1						1					
	周産期ケア論	3		2							1				
	助産診断技術学(妊娠期)	2		2							1				
	助産診断技術学(分娩・産褥期)	3		2							1				
	助産管理学	4		1						1					
	助産学実習	4		10						1	2	1	1		
	小計(6科目)	-	1	17	0				0	1	2	1	1		
	小児看護学	小児看護学概論	1	2					1						
	小児看護援助論	2	2								1				
	小児ケア論	2		1							1				
	母児保健関係論	2		1							1				
	小児看護学実習	3	2								1	1	1		
	小計(5科目)	-	6	2	0				1	0	1	1	1		
	看護管理学	看護システム論	2	2							1				
	看護サービス論	4	1								1				
	看護政策論	3		1							1				
看護教育論	2		2												
リスクマネジメント	4	1						1							
看護管理実習	4	1						1	1		1	5			
小計(6科目)	-	5	3	0				2	1	0	1	5			
臨床総合科目	看護倫理学	1	1					1							
臨床看護実践演習	4	4						4	2	5	2				
臨床心理概論	4		1												
臨床薬理学	4		1					1							
在宅医療論	4		1												
チーム医療論	3	1													
がん看護論	4		1					1							
糖尿病看護論	4		1					2							
医療経済論	2		1						1						
国際看護活動論	2		1												
救急救命看護論	4		1					1							
健康管理概論	4		1												
小計(12科目)	-	6	9	0				6	2	5	2	0			
卒業研究等	看護研究セミナー	3	2					4	1	5					
看護研究セミナー	4	3						4	1	5					
小計(2科目)	-	5	0	0				4	1	5	0	0			
合計(113科目)		-	110	87	0			7	2	5	3	8			
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業のためには、124単位以上を修得しなければならない。その内訳は次のとおりとする。 基礎分野(一般総合科目)のうち、人文、社会、自然の各分野より6単位以上、体育・スポーツ科目2単位以上、外国語科目は「英語」4単位以上、総合科目1単位、計13単位以上。 専門基礎分野、専門分野、卒業研究等から必修109単位、選択2単位、計111単位以上。 選択2単位のうち、1単位は、基礎総合科目の中から修得すること。 助産師国家試験受験資格取得のためには、選択科目として、助産看護学から5科目17単位を修得しなければならない。 以上の結果、看護師・保健師の国家試験受験資格を取得するためには、124単位、看護師・保健師・助産師の国家試験受験資格を取得するためには、140単位を修得しなければならない。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	人文科学関係科目	倫理学 A	国際化社会を生きる現代の若者にとって、倫理と宗教は極めて重要である。この認識により、基本概念として、文明や文化がそれぞれの民族によって、その本質と価値観に大きな差異がみられる。このため世界の三大宗教を考察しつつ、その宗教のもつ倫理性が人の生き方や生活そのもの、さらには「こころ」・「いのち」・幸福・愛・正邪・善悪などと大きく関わっていることを明確にする。「人間としていかに生きるか」という倫理学の根本が宗教では「信仰」そのものであることを理解し、その現代的意義を探求する。	
		文学 A	現代社会における<文学>の意義について考えるとき、江戸時代に展開した<俳諧>の可能性に注目される。それは個人レベルでの作品鑑賞にとどまるものではなく、作品自体が個人と個人とを繋ぐコミュニケーションの手段でありえたのである。 俳諧作品の解釈・鑑賞とともに、俳諧史の諸相を見ることから<座の文学>たる俳諧の特質を理解し、現代社会における<文学>、また、<ことば>が果たす役割について認識を深めたい。	
		歴史学 A	封建国家から近代国家への発展とその意味を、後発国の典型であるドイツを材料として研究する。後発国ドイツは先進英仏の強い影響下に近代化の道を歩んだ。それは英仏とは異なっており、後発性とナショナリズムに傾斜していた。ナチスの経験まで連ねて「後発型」について考えてみたい。 1. 封建社会の枠組み 2. ビスマルクの政治 3. 第一次世界大戦と戦後 4. ナチスの時代とその後	
		音楽 A	多種多様な音楽が存在し、自由に音・音楽を享受できる、めぐまれた音楽文化状況にある現在、ビデオやテープ、CDなどによって最新の音楽情報を知り、さまざまな世界の音楽に触れて、社会における音楽の役割及び人と音楽との関わりを理解して、豊かな人間性と情操を養う。また、読譜力が楽曲理解と深い関わりをもつことから、その基礎となる音楽理論を学び、音楽に対する興味・関心と曲の構成、国や地域によって異なる音楽の特徴、時代背景などを知り、自己の音楽観を広げる。	
		美術 A	美術のすべてを限られた時間で体得することはできないが、小品でも自分の制作に喜びを感じたり、優れた作品や作家に感動しそれを尊重する心を育てたい。 1. いろいろな表現方法の理解と制作 紙染め・墨流し・型押しなど。 2. 作家と作品 日本の美術（仏教美術・大和絵と絵巻・雪舟の水墨画・北斎と広重・など） 西洋の美術（ルネサンスから現代までの主な作家と作品についての概説）	
社会科学関係科目	法学 A	我が国の法制度の根幹をなし、「日本という国のかたち」を定めている日本国憲法の大綱を把握するとともに、憲法的なもの見方と憲法に関わる諸問題への取り組み方の基本を考える。 現代国家における憲法の機能を導入部とし、日本国憲法の成立過程、特色、基本原理等を旧憲法と比較しつつ概観したうえで、統治機構及び人権の両領域について、重要な規定の趣旨・内容を学んでいくが、抽象的、観念的憲法論をひかえて、身近な事例を用いながら、できるだけ具体的なアプローチを行うように留意する。		

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	社会科学関係科目	心理学 A	心理学における科学的研究の論理と研究方法の解説を試みるとともに、人格心理領域の基礎知識を取得させることで、客観的な自己理解と対人関係を分析する方法について理解させる。講義面ではとくに、認知面での情報処理過程に関する生物学的基盤を、生理心理学的研究領域からの文献により検討するとともに、臨床研究として問題行動への心理療法を紹介する。さらに社会的判断の歪み形成の研究を検討することで、これと自他の人間関係理解につながる交流分析や論理療法に融合させることにより、実践的な対人関係調整の方策を模索する。	
		社会学 A	社会学が研究対象とする最もミクロな領域である「行為」から出発して、最もマクロである社会構造や文化にいたるまでの「社会学の基礎概念」を分かり易く解説し、社会学的思考の基礎を養う。 「現代社会」の位相として顕現する人権問題、特に「女性差別とフェミニズム」に焦点を合わせ、具体的事例に則しながら、社会システムの分析に習得した社会学的思考を応用し、社会学的研究方法を体得させることをねらいとする。	
		教育学 A	教育とは何か、人間とは何かという問いは、いつの時代であっても、古くて新しい問題である。現在、社会的状況は急激に変化しつつあるが、こうした中で教育を通じての新しい人間像を追究することは、今や緊急の課題である。そこで本講では、望ましい人間の育成を、生存の問題（生きること、学ぶこと）、社会的存在の問題（個と集団、共生）、国家的人間の問題（国民共通の人間像）、人類の問題（教育の国際化）、21世紀の人間像、などの視点を中心にして論じつつ、かつ学生と共に考えていく。	
		経済学 A	近代経済学の基礎概念を学習するとともに、経済学的思考方法に馴染んで、現代社会の基本的な経済現象を理解する知的基盤を培うことを目的とする。 講義の内容は、「限界」、「弾力性」、「比較優位」、「リスク」、「外部性」、「国民所得」などの基礎的概念の理解に重点を置きつつ、「需要」、「供給」、「価格決定」のメカニズムの学習にはじまって、「国民所得の決定」、「景気変動」、「経済成長」、「国際貿易」の問題に及ぶ。	
		情報処理	コンピュータを用いての情報処理の現在像・未来像を追求し考察を行う。人間とコンピュータの性能の差異を知るところから始め、コンピュータ処理の利用・活用方法、人間とコンピュータの協調態勢のあり方を展望し、入出力、記憶、演算における優れたコンピュータの能力と、人間の総合判断能力を如何に組み合わせるかを具体的なコンピュータ応用の現状を具体例を通じて学習する。学習分野としては、文字加工、映像加工、音加工、通信分野を取り上げ、情報処理の総合的理解を図る。	
	自然科学関係科目	数学 A	高等学校のカリキュラムに選択制がかなりの範囲で導入されたため、学生の数学の能力にかなりのバラツキが生じているのが現実であり、この傾向は今後ますます強まっていくものと思われる。このような観点にたつて授業内容は高等学校までに学んできた初等関数と大学初年度で学ぶ程度の内容をもりこむ。関数にあつては関数の考え方、基本的性質、グラフによる変化の特徴等の把握の徹底につとめる。初等関数からつづく次の展開としては微分積分法であり、その応用や発展への基礎力を養うように心がける。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	物理学 A	<p>本講義は高等学校で物理を十分に履修しなかった学生が受講することを目的としている。大学での講義は物理学の基礎知識が多少はあることを前提にしているし、卒業後も職場や家庭でその知識が必要とされる。</p> <p>物理学の基礎として、まず力学を詳しく教える。特に運動の法則とその日常生活への応用に重点を置く。エネルギーの相互変換や衝突現象についても学ぶ。さらに身の回りで目にする熱現象について力学的に考察し、熱運動の本質に迫る。</p>	
	化学 A	<p>自然科学における化学は各分野の学問を学びそれらの分野での専門領域が真に理解でき高度な創造的機能を発揮する基礎となる科目である。現代の豊かな暮らしは科学技術の発達により製産された便利な製品(物質)が利用されている。化学 A は、空気、水など生活における物質を原子、分子のレベルから解説し分子の構造、原子の電子配置、化学結合、物質の性質、酸化と還元、酸化剤と還元剤など物質の現象を化学的視点でとらえる態度を深める。</p>	
	応用生物学 A	<p>ビッグバンによる宇宙の誕生(150億年前)にはじまり、地球の誕生(46億年前)、生命の誕生(32億年前)と原始大気の還元的環境からオパーリンの生命の起源、ミラーの実験、核酸等(無生物 ウイルス 生物)の化学進化、生物進化の過程を理解する。特にヒトの起源と進化、バイオテクノロジーについて詳述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (1)哺乳類の進化と霊長類の出現 (2)サル及び類人猿の出現 (3)ヒト科の起源 (4)ホモサピエンスへの道 2 (1)遺伝子組み換え (2)細胞融合 (3)クローン羊・牛 	
	体育・スポーツ A	<p>学生自身が自己の健康及び体力に関する自覚を高め、生涯体育・スポーツや健康に関する基本的知識理解を深め、科学的なスポーツ実践が出来るよう教授する。</p> <p>またチームスポーツ等の実践において、学生の心身の調和的発達を促し、特に情緒の安定や能力的な社会性を育成し、健全な学生生活を可能にすると共に、現代社会の特有の環境から生ずる心身の不調等に対応出来る体力の養成を図る。</p>	
	体育・スポーツ B	<p>現代社会におけるスポーツ現象をめぐる事実を提示し、スポーツについてのより深い認識力を養うとともに、文化的価値を理解させる。同時にスポーツの持つ楽しさを体験させることにより、豊かで潤いのある生活を営み、生涯を通じより良く生きて行くための糧となるよう、体系的認識及び実践力を育成する。</p> <p>また文化としてのスポーツのかかわりにおいて、多様な人間性・教養を深め、生涯スポーツの推進に指導的役割を果たす人材の育成をめざす。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎分野	外国語科目	英語 A	オーディオ・ビデオ教材の活用, 短い談話の正確な聞き取り訓練, 文型反復練習などによって, 基礎的聴解力と口語表現力を身につけ, 情報の発信者として英語で自分の意見を表現する能力を養成する。また, 英語を読むことで総合的な語学力の向上を図りながら, 情報を学際的に取り入れ, 現代社会と現代を生きる我々が抱える諸問題に対し関心を向ける。英語はコミュニケーションの道具であるという認識のもと, さまざまな言語活動の場で応用可能な英語力の習得を目指す。	
		英語 B	リスニングでは, 日常生活のさまざまな場面を設定した教材を用い, 実際的な訓練を行う。リスニングのポイントは, 例えば, テープから流れてくる内容を瞬時に判断し, 求められている情報をいかに聞き取るかである。 リーディングでは, 簡単な雑誌や新聞からの記事を用い, 内容をすばやく, 正確に読みこなすことを目標とする。できる限り辞書を使わないで, それぞれの記事等を読み切る充実感を味わわせ, 読解力をつけるだけでなく, 英語で書かれたものを楽しんで読む多読の習慣をも身につけさせる。	
		英語 C	英語を総合的に学習しながら, 英語を使用する人々の文化を学び, コミュニケーション能力を養う。 日常生活のさまざまな場面を想定した教材を用い, 話される英語の要点を聞き取る。また, パラグラフリーディングを行うことにより, 全てを日本語に訳すのではなく, 内容の理解や要点把握を行う。 さらに, 練習問題等を通して, 発信型コミュニケーションの基礎を身につける。	
		英語 D	1. 英文購読を通じて, 文章の大意をつかむ力を養成するとともに, 速読速解の力を養う。 2. 英文を購読しながら, 英語の構造(文法), 単語, 熟語, 発音についても学習して, 基礎学力を固める。 3. 英文の中身について十分理解させるとともに, 常識や知識を深めることの大切さを理解させる。 4. 様々なテーマを扱った英文を購読し, 英語文化等にも触れ, 国際的感覚を身に付けさせる。 5. 学生の活動に重点を置き, 英語活用能力を養う。	
		独語	印欧語に属する英・独・仏語等の相関, 特に既習の英語との関連に重点を置いて説明し, ドイツ語の修得のみならず, 英語の基本の再確認にも役立つ。 授業は次の2点を特に留意する。 1. 正確な発音・リズムで話し読む練習は学習の基礎であるが, ドイツ語の豊かな音楽性の体験をも期待する。 2. 「ドイツ語は難しい」という誤解のもとになっている語尾変化等の合理性を理解させ, 文肢・文節の論理的な関係に注目することで情報処理の基礎訓練ともする。	
		仏語	「文法を中心とした理解と音読の積み重ねを通してフランス語をマスターする」という方法で目的に到達すべく文法上の基礎的な知識がはっきりと確実に理解され, 修得された知識が有機的な連繫を保ちながら大きな知識の流れになってゆくよう, 要所所でそれらをまとめ, 一目で全体が見渡せるようにし, すばらしい動詞活用ハンドブックの併用で音読により動詞の活用をマスターしながら学習の実をあげる。	
		伊語	イタリア語の基礎を学び, 正確な発音とイントネーションを徹底して学習する。幅広くイタリア文化にふれ, 西洋音楽を学ぶための一助とする。その為に, 文法を理解し会話練習を通じて, 読解力・表現力を養う。さらにイタリア古典歌曲及び現代歌曲, オペラの台本等について研究する。また, イタリア旅行あるいは留学生活で実際に合うさまざまな場面を想定して作られたテキストも併用し, いつのまにか自然なイタリア語が身につくよう授業を進めて行く。	
	総合科目	総合科目	地球環境や異文化理解など人類に共通する課題や少子・高齢化と福祉, 家庭の在り方など, 我が国の社会が抱えている課題について理解を深め, 視野を広げるとともに, これら諸課題に対する関心を持たせ, 学び方を習得させることにより, 生涯学び続ける態度を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人体の仕組みと機能	形態機能論 (呼吸・循環器官系)	呼吸器系, 循環器系, 血液の造血臓器のマクロ形態, ミクロ形態及び生理機能について解説するとともに, 血液の細胞学について解説する。	
	形態機能論 (神経・生殖器官系)	中枢神経, 末梢神経, 生殖器系, 腎・泌尿器系のマクロ形態, ミクロ形態及び生理機能について解説するとともに, 胎児・胎盤の発生解剖生理学について解説する。	
	形態機能論 (消化・内分泌器官系)	消化器系, 内分泌器系のマクロ形態, ミクロ形態及び生理機能について解説するとともに, 性周期について解説する。	
	形態機能論 (運動・感覚器官系)	骨格・筋系, 感覚器系, 皮膚系のマクロ形態, ミクロ形態及び生理機能について解説するとともに, 運動生理学について解説する。	
専門基礎分野	病態の成り立ちと治療経過	病理学	病気の原因とそれに対する生体の反応, 病気の経過・転帰について, 全身の各臓器に通じる一般的な原理・原則を学ぶことを目標とする。これらの知識をもとに, 各臓器・器官系における病気の基本的メカニズムを理解することを目標としている。
		感染学	感染症の発生にかかわる微生物側の要因や生体側の防御機構の仕組みおよびその破綻を来す諸要因について教授し, 次いで, 化学療法剤などによる治療, およびこれらの生物学的影響(例えば, 感染症の変貌や薬剤耐性菌の出現など)に関して教授する。
	疾病論 (呼吸・循環器官系疾病)	呼吸器疾患, 循環器疾患, 血液疾患のうち, 主な疾病の成因, 症状, 経過, 検査所見, 治療等について講義する。	
	疾病論 (神経・生殖器官系疾病)	脳・神経疾患, 精神疾患, 生殖器疾患, 腎・泌尿器疾患のうち主な疾病の成因, 症状, 経過, 検査所見, 治療等について講義する。	
	疾病論 (消化・内分泌器官系疾病)	消化器疾患, 代謝疾患, 内分泌疾患のうち, 主な疾病の成因, 症状, 経過, 検査所見, 治療等について講義する。	
	疾病論 (運動・感覚器官系疾病)	骨格・筋疾患, 感覚器疾患, 皮膚疾患のうち, 主な疾病の成因, 症状, 経過, 検査所見, 治療等について講義する。	
	生化学	人間を構成している基本物質である糖質, タンパク質, 脂質およびDNAに関する基礎的知識について学び, これら物質の生体内における代謝およびその機能について理解する。そのうえで, 生体内でこれら物質代謝がなんらかの理由で乱れると, どのような病態が生じるのかを学習し, ヒトの健康と生化学との関わりについて理解することを目標とする。	
	薬理学	薬物と生体の相互作用を解析することが薬理学の主な目的であり, そのためには生化学, 生理学, 解剖学, 病理学などの幅広い知識を基盤として, 代表的な薬物の採用機序を生体の構造と機能との関連で理解し, 薬物と実際にその薬物を投与される患者との関係について看護師の視点で判断し, 薬物療法を効果的に行うための基礎的・臨床的な知識の習得を目標とする。	
	栄養学	生命を支える栄養素の構造, 代謝についての知識を基礎に, 食物摂取と消化吸収作用, ライフサイクルと栄養について学び, 食生活を科学的に理解する。さらに, 食事療法の意義及びその実際について学び, 様々な健康状態にある看護の対象者に対して栄養的な側面から支援する知識を習得する。	
	免疫学	生体の病原菌や非自己のものを認識し, 排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし, 免疫反応がときに生体にとって有害な反応(ショック, アレルギー, 自己免疫疾患)を引き起こすことがあり, それらの機序についても学ぶ。ここでは, 免疫学の理論や概念の基礎知識を教授し, 微生物の体内侵入に対する防御機構, そのことに起因する生体の傷害機序について教授する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎分野	基礎総合科目	公衆衛生学	組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる知識と技術を学ぶ。したがって、一定の地域の住民（地域保健，老人保健，成人保健），産業職場で働く人（産業保健），学童（学校保健）ごとに予防医学を展開する。また，健康及び疾病の集団的症状を把握し，その要因や条件を包括的に探る方策として，疫学的思考と方法を習得する。	
		情報処理・統計学	統計解析の必要性と限界，疫学的な研究設計の重要性，統計学の基本的な考え方を理解し，解決したい問題に応じた研究設計とデータの型に応じた分析法が適用できる知識を教授する。また，統計解析法は疫学調査法と関連させながら理解させる。調査法とデータの型，分布型の組み合わせによる様々な局面に応じた解析法を習得する。	
		保健福祉行政概論	社会福祉制度がどのような法律構造に規定されて成り立っているかを理解する。そして，各法制度が現実社会でどのような機能を果たし，影響を与えるかを明らかにする。また，社会福祉援助技術の目的や歴史，概念枠組み，展開過程を概説し，社会福祉援助技術の意義を学ぶ。	
		学校健康保健論	学校における身体とこころの健康問題を取りあげ，学校保健の重要性について理解させる。学童・生徒の身体・健康維持・増進における学校の役割については，母子保健と関連させ理解させる。子どものメンタルヘルスケアでは学校に関連している不登校や発達障害児のこころの問題を重点的にとりあげる。また，母子保健と学校保健の連携の在り方について教授する。	
		産業健康保健論	産業の場における人々の心身の健康問題を取り上げ，産業保健活動の基礎的な知識及び技術を教授する。労働者の労働衛生，メンタルヘルスケア，健康の保持増進のための保健指導，健康相談等，産業健康保健の理論，役割，機能についても教授する。	
		情報処理・統計学演習	医療情報学の中でも特に診療録についての法律的な定義を十分に理解させる。また，医療安全管理システムの事例などから病院内での組織的活動についても理解させる。上記を踏まえて医療と情報との関わり・仕組みを教授する。	
		ボランティア活動論	ボランティアの理念，目的，意義，現状や問題点について教授する。学生に主体的にボランティアを選択して体験させ，ボランティア活動が信頼を育むコミュニケーションであることを理解させる。	
専門分野	基礎看護学	看護学概論（総論）	看護が人間の健康や環境や生活に関わっていることを理解し，看護とは何か，看護をささえる主要な考え方，看護者の役割について学ぶ。看護の歴史的な変遷，看護についての主要な考え方，人々の健康に関わる看護職の活動について理解し，それぞれの連携の中で，看護の独自性や役割について考える。	
		看護学概論（健康概念）	健康の概念を，身体的・精神的・社会的な側面から多面的に理解する。人の健康には様々なレベルがあり，それは，静止したものではなく，力動的に変動しているものであることを理解する。さらに，健康は，人が営む行動を通して，主体的に作り上げられるものであることを理解する。これらの理解を通して，健康を支える看護の役割について考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	基礎看護学	看護技術 (診断)	問診, 聴診, 触診, 打診, 臨床検査所見の判読(臨床検査の前処置を含む)等, 診断時の基本的技術を学ぶ。また, 健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を学ぶ。	
		看護技術 (内科的治療)	薬物療法(与薬法, 注射法等) 輸液・輸血療法, 安静・運動療法, 食事療法のほか放射線療法や科学療法と看護の役割について学ぶ。	
		看護技術 (外科的治療)	手術侵襲と生体反応を理解した上で手術療法と看護の役割, 人工臓器療法(透析療法, ペースメーカーや人工呼吸器療法等)と看護の役割について学ぶ。	
		看護理論	看護の見方・考え方の基盤として看護理論全般について学習し, その中から代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。1)看護理論を構成する概念について理解する。2)看護理論が出現した社会的背景から, 代表的な理論家の理論内容を理解する。3)看護理論を実践へ活用する方法について理解する。4)看護理論を学習することにより, 看護の見方・考え方の基礎を習得する。5)理論家の書物を講読・発表から, 分析力・批判的思考力・発表能力などを養う。 また, 看護の事象の本質を理解する方法を修得するためにケア理論, セルフケア理論, 家族ケア理論などの看護概念のモデルについて学ぶ。	
		看護過程論	看護実践の基本となる重要な方法論である看護過程について, 基礎的な知識を理解し, さらに事例を用いて実際に看護過程を展開する方法を教授する。また, 看護過程の一環として, 実践した看護を記録すること, 看護を振り返りよりよい看護実践を考えるためのレポートの書き方についても教授する。	
		ヘルスアセスメント論	適切な看護ケアを実施するためには, まず患者のデータを情報収集することが必要である。その中でも, 身体的・生理学的な情報及び心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントは重要である。そこで, ヘルスアセスメントの方法を小グループで実習を取り入れながら学習する。	
		看護栄養管理論	栄養は健康の維持・増進及び疾病からの回復に欠かせない重要な要素である。看護に必要な栄養の管理について, 栄養代謝機能障害別に教授する。その後, 学生の臨地実習経験や栄養に関するトピックス等から, 栄養管理に関する課題を見つけ, 演習や討議を行うことによって学習を深める。	
		援助の人間関係論	看護実践における基本的技術の一つであるコミュニケーションについて学習する。対人関係のプロセスを理解するとともに, 自分自身について考える機会を持ち, 自己の理解を深めることにより, 他者理解について考える。さらに, 看護師-患者関係の特徴を理解し, その展開技術としてコミュニケーション技術を習得し, 専門看護師として看護活動を効果的に実践することができる能力を養う。	
		基礎看護学実習 (触れ合い)	医療施設及び保健・福祉関連施設において, 施設の機能・看護職者の役割・看護職と関係職や他職種との連携の在り方を理解する。また, 患者とのコミュニケーションを通して患者のニーズや療養環境について実習を通して学ぶ。	
		基礎看護学実習 (援助)	一人の患者を受け持ち, 患者の健康障害特性を自己学習した知識と技術を基盤に, 情報収集・アセスメント・看護診断・看護計画の立案・実施・評価という看護過程に沿った看護実習を通して学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	在宅・地域看護学	在宅看護学概論	保健・医療・福祉政策において、在宅ケアが推進される社会的背景の理解について教授する。 在宅看護学の概論として、援助論及び臨地実習の基礎となる理念や問題を学習する。 在宅看護を支えるシステム・理論や在宅療養者の特徴について学習するとともに、社会情勢の変化に即した在宅看護の在り方について教授する。	
		在宅看護援助論	在宅看護の実践に必要な知識、技術についてその成り立ちの基礎となる根拠と手技について学習する。また、在宅療養者とその家族に対する看護実践のために必要な、知識・技術について学習する。在宅看護学実習の基盤となる科目として、その根拠と技術内容、また在宅療養者を援助する方法をイメージ化できるように、事例学習を通して療養者と家族の健康問題をアセスメントし、援助する方法について教授する。	
		在宅看護学実習	在宅看護学概論、在宅看護援助論で学習した知識、技術を活用し、在宅療養支援における在宅看護の機能・役割及びその特性をとらえ、在宅看護の在り方や課題について考える。また、実習を通して、保健・医療・福祉サービスの活用法及び各サービスの連携について理解させる。	
		地域看護学概論	地域で生活する人々の健康障害の予防、健康の保持増進、健康障害をもつ人々の支援について教授する。 地域看護学の基礎を学ぶ科目として、地域看護の理念と目的を学び、地域看護の定義、目的、対象者が、病気・障害を持つ人から健康者までであることを理解させる。 地域看護の領域は、看護の各領域以外に多くの関係機関、他の職種と連携・協働活動が求められることを教授する。	
		地域看護援助論	地域で生活するすべての住民の健康権を保証するために、住民とのパートナーシップのもとで効果的に協働する地域看護活動について教授する。また、新しい健康政策への提言や制度の構築の必要性について理解させる。さらに、助産のプライマリーヘルスケアを通して妊婦の健康コントロール能力の高揚を展開する方法を学ぶ。	
		ケアマネジメント論	地域看護(在宅看護)を実践していくために必要な、ケアマネジメントの方法とケアマネジメントの基盤となる地域ケアシステムについて教授する。事例をケアマネジメントの視点で分析し、効果的に介入する方法についても教授する。	
		ケアシステム論	看護の対象となる人々のためのケアシステムについて理解する。人々がどのような社会(家庭・地域・学校・職場等)システムの中で生活しているのかを理解することは、看護の対象となる人々を理解するために重要である。ケアシステムを構成する基礎概念及び医療と社会との接点で生じている問題や課題、またそれらを理解するための原理やモデルについて教授する。	
		家族看護論	病人の家族支援の重要性について総合的に教授する。 看護の対象となる人の看護、健康問題と家族について概説し、困難を抱える家族アセスメントの方法について教授する。 障害を抱える家族を理解するための基礎的な理論や患者・家族の接近的支援の方法について事例を交えながら教授する。	
		地域看護学実習	地域で生活する人々のうち、特に在宅ケアニーズの高い人々及びそれを支える家族の生活実態と、そこで展開されている看護の実際を知り、地域での個別援助の在り方を学ぶ。また、地域ケアサービスシステムの一環としての訪問看護の機能と役割について教授する。市町村保健センター・保健所で実施している保健活動への参加を通して、地域の健康と人々の健康ニーズを総合的に理解し、地域保健活動の基本的技術と実践応用力を養う。また、個人・集団の特性に応じた保健指導技術の基本、住民組織の連携と保健師の役割も教授する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	精神看護学	精神看護学概論	精神の健康の維持, また精神障害からの回復を援助するための基礎的な考え方を教授する。精神看護の生物学的, 心理的, 社会学的背景を学び精神看護におけるケア, 専門業務の基準を養う。また, 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律も学習する。	
		精神衛生保健論	病む人の内的世界の理解のために, 特に思春期の心の悩み, 壮年期のうつ状態に対するセルフケア論を通して, 精神力動理論による精神の健康と精神看護について学ぶ。	
		精神看護学実習	精神看護学の知識や技術を, 臨床の場面で対象者に合わせて柔軟に活用する。精神疾患患者と向き合い, その人の精神機能や治療過程, 内的世界, 生活を理解し, ひとりの人間としてその人のあり方を総合的に理解し, 必要な看護ケアを考え提供する。また, 対象者とのコミュニケーションを通して, 援助関係形成の技術を活用し, 自己洞察を深める。	
	成人看護学	成人看護学概論	成人看護の概念と構成を理解し, 成人各期に求められている看護の在り方を考える。また, 成人期にある対象特性を理解し, 成人看護の目的及び役割を理解する。成人期にある人の心身・社会的成熟, 適応を促すための看護理論及び方法についての理解を深める。	
		急性期看護援助論	生命危機状態にある人の回復をしていくプロセスにおける対象者の健康や生活の変化, そしてそれに伴う心の動きを踏まえて効果的な援助の在り方を学ぶ。具体的な事例について, 看護過程の展開を通して, 治療のために特殊な場におかれた対象者の生活に注目し, 生活活動を整える援助方法や症状緩和のための援助方法を活用すること, そして社会復帰に向けての看護の役割や他職種との連携について検討する。	
		慢性期看護援助論	健康レベルが慢性状態にある人々への援助方法について学ぶ。対象が自らの力で生活を拡大し, その人独自の生活が営めることをめざした具体的援助方法を基本的な考え方や理論に基づき習得する。また, グループ討議を通して対象への看護の役割・姿勢, 他職種との連携の在り方を考える。	
		周手術期ケア論	周手術期にある人の身体的, 心理的な理解の上に立って, 術前の準備処置, 術中の介助, 術後の回復処置に対する看護ケアを有機的, 統合的に実地できる看護能力を養う。また, リハビリテーションの重要性の認識を深める。	
		急性期看護学実習	急性期看護援助論, 周手術期ケア論で学んだ知識と援助方法を活用して臨床実習を行う。周手術期にある人を受け持ち, 身体的・心理的・社会的側面から全体的な理解を深める。身体を観察を通して, フィジカルアセスメントの能力を高めるとともに, 対象が回復に向かうために必要な看護援助を考え, その人の尊厳を守りながら考えた援助を提供できる能力を養う。対象や医療者とのかかわり, 学生同士の討議を通して実施した看護を振り返り, 自己洞察を深める。さらに, 看護の役割を考え, 専門職としての意識を高める。	
		慢性期看護学実習	慢性的な健康問題をもつ人の発病から現在までの身体的, 心理的, 社会的側面から理解し, 必要なケアを考え, その人の尊厳を守りながら看護ケアを提供できる能力を養う。また, 対象や医療従事者との関わりや学生同士の討議を通して, 実施した看護や態度を振り返り, 自己洞察する。さらに, 慢性疾患をもつ人への看護の役割や倫理的問題について考え, 専門職として意識を高めていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間福祉学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	老年看護学	高齢者看護学概論	加齢の意味や加齢に関する理論、老年期の特徴、加齢のプロセスと健康などについて学び、一人の生活者として、高齢者を理解する。さらに、高齢者をとりまく社会制度と課題について理解し、高齢者ケアにおける看護の役割について学ぶ。また、高齢者看護学の基礎理念を理解し、高齢者に関わる倫理的課題について学ぶ。
		高齢者看護学援助論	健康障害を持つ高齢者が置かれている状況を総合的にアセスメントする必要性を理解し、アセスメントの方法やそれに基づく看護援助の方法を学ぶ。また、高齢者の在宅介護に関わる課題やその担い手である家族の置かれている状況について学び、他職種との連携という視点を踏まえて、高齢者に対する日常生活援助を展開する上での看護者の役割を理解する。
		高齢者看護学実習	高齢者看護の対象の理解を深め、個別的看護の実践、高齢者看護の役割について理解する。既修の高齢者看護の概念や理論と実践とを統合し、高齢者看護を実践し探求するための基本的な知識及び態度を養う。また、施設ケアにおける介護専門職に期待されている役割についても理解し実践させる。
	母性看護学	母性看護学概論	母性看護の中心となる「母性」についての概念を理解し、生涯を通じた母性の在り方を考える。ライフサイクル各期における母性の発達と各時期に特徴的な健康問題を理解するとともに、母子保健の変遷や関連する法律を知り、母性看護の役割について考える。
		母性看護学援助論	ライフサイクル各期における母性の健康増進をはかるために必要な援助方法を講義・演習を通して教授する。特に身体的、心理的に変化の激しいマタニティサイクルにおいて、諸理論を活用し、対象者に関わる援助の視点とその方法について考える。
		母性看護学実習	母性看護学概論、母性看護学援助論で学習した知識・技術を活用し、母性の対象や実施されている援助活動の理解を深めるとともに、母性の成長発達のひとつの過程にある妊娠に関わる出来事を体験している女性を、健康という視点を踏まえて身体・心理・社会的各側面から総合的な母性を理解する。さらに、対象者と接することや自己の看護援助の振り返り、グループ内での討議を通して、看護の役割を考え倫理的問題に対応するための基礎的能力を養い、看護観を身につける。
	助産看護学	助産学総論	助産学とは何か、助産学とはいかなる学問であるか、助産学の基本概念を中心に教授する。助産学の導入として、助産実践に必要な知識や技術の発展過程とその体系について教授する。また、助産の歴史と母子保健の変遷を通じて、助産の役割と専門性について教授する。さらに、助産の理論・研究・教育についての現状と将来展望を理解し、助産・助産学について自らが考える目標と挑戦すべき課題を明らかにさせる。
		周産期ケア論	胎生期から新生児期まで一貫した母児の看護ケアの重要性とその体系化した看護活動の在り方について学ぶ。
		助産診断技術学（妊娠期）	産婦の経過観察に必要な診断技術を学び、妊婦の正常と異常に対応した看護過程を展開するための必要な看護援助を習得する。
		助産診断技術学（分娩・産褥期）	妊婦の身体的・心理的な著しい変化に対応した援助の視点とその方法・技術を学び、適応看護論に基づいた母児の看護展開を習得する。またリスク状態にある母児の看護の展開についても学ぶ。 一方、褥婦の身体的、心理的な理解の上で褥婦生活を支える援助技術を習得するとともに新生児の観察技術について習得する。
		助産管理学	助産施設の管理・運営並びに業務を効果的に遂行するための基本理論を教授する。また、ケアの質を維持するために、医療費の効率性の側面からケアの効果の評価法を教授する。なお、管理の対象、特に、助産の場と人の管理に焦点を置き助産管理の進め方について考察する。

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	助産学実習	<p>妊娠・分娩・産褥期を通じて女性に必要なケアを提供し、正常な分娩を介助し、新生児のケアを実施するために必要な診断技術とケア技術を教授する。本実習では、助産過程の展開を通して、女性と胎児が妊娠・分娩・産褥期に生じる心身の変化に適応し安全で満足な出産と生活を送ることができるように、女性のニーズを中心に置き、理論(知識)に基づいた診断技術、ケア技術、人間関係形成技術を教授する。また、育児支援や退院後の生活に適応するために必要な生活上の支援(保健指導)についても教授する。</p>	
	小児看護学概論	<p>(概要) 小児を取り巻く現代社会の状況や諸統計から小児の健康の実態を把握し、健康の維持・増進について小児保健及び小児看護の概要を学ぶ。</p> <p>小児看護では、その前提として小児の成長過程における身体的・精神的な状態を医学的に把握するとともに、小児の病態の特異性を踏えて実践することが必要であることを教授する。</p> <p>小児看護の歴史的な変遷を振り返り、小児看護の歩みを理解するとともに、小児看護の理念や、現在、そして将来の小児看護の役割・課題について教授する。また、子どもを理解する上で基礎となる成長発達理論について考え、子どもの健康を支援する看護についても教授する。</p>	
	小児看護援助論	<p>健康障害をもつ子どもの生活行動への援助方法、症状緩和の援助方法など、小児看護特殊技術に関する知識や方法を習得する。さまざまな状況の中で療養生活をしている健康障害をもつ子ども・家族への看護援助演習を行いながら学習する。さらに、具体的な事例について、ロイの適応看護モデルの考え方に基づいた看護過程の展開を通して看護援助の方法を深める。</p>	
	小児ケア論	<p>(概要) 医療・保健・福祉・教育の背景を踏えて、成長発達過程にある小児及びその家族の支援のあり方について現在そして将来の課題を学ぶ。</p> <p>健康であること及び健康を害することが、子ども・家族にとってどのような意味があるのかについて医学の立場で講義する。子どもと家族を一つの単位として捉え、健康レベルに応じた日常生活の過ごし方や援助のあり方を理解する。</p> <p>子どもとのコミュニケーションの取り方、援助関係の形成方法、遊びを活用した援助方法の工夫などを修得する。さらに、健康障害とストレスという視点から子どもや家族を理解し、子どものストレス、家族のストレスを軽減する援助を学ぶ。さまざまな健康レベルの子どもに関わる保健医療施策について学ぶ。</p>	
	母児保健関係論	<p>健康であること及び健康を害することが、子ども・家族にとってどのような意味があるのかについて学ぶ。子どもと家族を一つの単位として捉え、健康レベルに応じた日常生活の過ごし方や援助の在り方を理解する。子どもとのコミュニケーションの取り方、援助関係の形成方法、遊びを活用した援助方法の工夫などを習得する。さらに、健康障害とストレスという視点から子どもや家族を理解し、子どものストレス、家族のストレスを軽減する援助を学ぶ。さまざまな健康レベルの子どもに関わる保健医療施策について学ぶ。</p>	
	小児看護学実習	<p>小児看護学概論で学習したことを活用し、身体的、心理的、社会的、成長発達の側面から統合的に子どもを理解する。ひとりの人間として子どもを尊重し、家族を含めて可能な限り日常の中で生活を送ることが出来るように、看護を提供する能力を臨床学習で学ぶ。学生同士の討議や医療者との関わりを通して、自己洞察を深めるとともに、小児看護の役割と課題について考える。専門職としての意識を高め、将来道徳的・倫理的問題に対処できる能力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門分野	看護管理学	看護システム論	個人と集団との関わり、組織の成り立ち、リーダーシップ、コミュニケーションなど、組織の生産性の向上のために必要な理論について学び、保健医療活動の中での看護管理の役割と機能について考える。システム思考を基盤にしたシステム把握と、それらの看護管理への活用を学ぶことによって効果的・効率的に活用する経営管理的な基本的考え方を身につける。	
		看護サービス論	保健医療システムのサブシステムとしての看護集団が、多様で複雑な環境の変化に適応し、人々の健康問題の解決と組織の目標達成を図っていくためには、どのような看護管理の知識と技術が必要かを学ぶ。	
		看護政策論	看護実践が保健・医療・福祉の諸制度や関係法規そして保健医療福祉政策とどのような関わりを持っているのかを理解し、人々の保健医療福祉ニーズに対応した看護職の役割遂行のためには、行政や政策の過程に看護職がどのようにアプローチすべきかの方策を学ぶ。	
		看護教育論	我が国の看護教育の歴史の変遷、教育制度、および看護教育に関連のある法律や施策について学習する。また看護における基礎教育と継続教育を専門職としての生涯教育体系の中に位置づけながら、看護者個々のキャリア発達を促していくために必要な考え方やシステムについて学ぶことにより、今日の看護教育の問題点と課題を考える。	
		リスクマネジメント	近年、医療技術の進歩はめざましく、急速な医療の高度化、専門化のなかで看護者は他の専門職者と連携しながら専門的知識と技術に根ざした効率的で質の高い医療を提供する責務がある。また、院内感染が今日的課題となっており、感染学の知識を基盤に耐性菌を中心とした院内感染の予防と発生時の対策を含めて、リスクアセスメントに対する取り組みの現状と動向を学び、看護職として課題解決に向けた役割を理解する。	
		看護管理実習	実際の看護システムを、対象者へのケア提供システムとケア提供者を支援するためのシステムの双方から、行動観察やインタビュー等の手段を用いて把握し理解する。実習を通じて学生が主体的に自らの行動計画を達成し、対象施設の人々や学生間の相互作用を通じて、看護専門職に必要な自律性と調整能力を身につける。	
	臨床総合科目	看護倫理学	医療の倫理、哲学的人間学、生命有機体論について理解し、看護師として、生命の尊厳の観念、生命への畏敬の念、生命に対する倫理観を会得する。	
		臨床看護実践演習	専門分野で各論的に学んだ知識と技術を症例を通して全体的総合的に実践する能力を培うことを目的に、グループ討論の形式で知識と技術の評価を行い、実践力を高める。	
		臨床心理概論	医療の現場において患者とその家族にかかわる際の臨床心理的配慮と役割の重要性を学び、看護師としての実践能力を習得させる。	
		臨床薬理学	薬物の効用、副作用、併用禁忌、投与方法、服用方法等について総論的に解説するとともに、特に抗癌剤について各論的に解説し、化学療法における看護の役割に関して理解を深める。	
		在宅医療論	在宅医療の動向と展望を学び、進化し続けている在宅医療のシステムについて教授する。また、在宅栄養療法や呼吸不全、腎不全、神経・難病の在宅療法などの実施法、在宅医療における訪問看護の役割・問題点について教授する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 臨床総合科目	チーム医療論	医師を中心とした、前近代的な医療に対して、近年医療及び社会環境の進歩に伴い、医療が細分化され、患者中心の、経済的にも効率化された医療が求められるようになった。そこで最良の医療を求め、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床心理士の総合力を結集したチーム医療の在り方について講義する。	
	がん看護論	(概要) がん患者の場合、その病態と経過によって、それぞれ看護支援のあり方が異なっており、多様な看護方法を習得することが必要である。 医学的にも社会的にも注目度が高いがんについて、その病態について学び、集学的治療、在宅治療、ターミナルケア等について理解させる。 手術療法、放射療法、化学療法等に関する看護ケア、緩和ケア、病院治療と在宅療法における家族の協力の必要性について学習する。	
	糖尿病看護論	(概要) 糖尿病看護は、治療方法に対応した看護が必要であり、それぞれの看護方法を学ぶ。 生活習慣病のなかでも重要な疾患である糖尿病について、糖尿病の病態と合併症を学び、栄養療法、運動療法における看護の指導的役割の重要性を理解させる。 食事療法、運動療法、薬物療法による血糖管理及び合併症の予防に関する看護ケア、セルフケアの指導、家族の協力の必要性について学習する。	
	医療経済論	(概要) 医療における問題を経済学的観点から考察し、医療経済問題に関する政策の意義と効果について学ぶ。 経済不況と規制緩和で医療をめぐる情勢が一段と厳しくなり、医療機関の経営が悪化してきている。この講義では、経済学的観点から医療の動向に関する一般的知識を学ぶ。 医療経営が悪化せざるをえない経済的必然性とその対策について、諸外国の動向などを参照しながら具体的に教授する。	
	国際看護活動論	日本の看護職は国際協力に携わる医療職の中で最も人数が多く、活動期間も長いなど、国際医療協力活動の中で中心的役割を占めている。国際看護活動論では世界の健康問題とそれに対して行われる看護の現状と課題について教授し、異文化の中で看護を行うための基礎知識を身につける。将来海外で看護を実践したいという学生だけでなく、日本の中での看護にも役立つ考え方や見方ができる能力を養う。	
	救急救命看護論	(概要) 救急救命看護は、臨機応変の対応が必要であり、その方法を多面的に理解しておく必要がある。 医学的観点から、緊急時・災害時の判断と対応において必要な専門的な知識と技術について教授する。 救急看護の特性と、救急救命時の看護の基本的知識に加えて、蘇生法やトリアージを理解させることによりアセスメントの基本的知識を教授する。	
	健康管理概論	生活習慣病を主題に、予防における食生活・運動習慣等生活習慣の重要性を学ぶとともに、広く病人の健康管理における生活習慣の意義について理解を深めさせる。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間福祉学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
卒業 研究等	看護研究セミナー	看護研究セミナーでは、 1)研究の基礎的知識や方法論について理解させる。 2)自ら問題意識を研究テーマへ発展させて深求する能力を習得させる。 3)研究の進め方、まとめ方について試行錯誤を指導原理として習得させる。 []では、看護研究の意義・目的を明確にし、研究テーマの決定方法、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識を教授する。	
	看護研究セミナー	[]では、研究のデータ収集と整理、分析・考察、研究論文・発表抄録の作成方法、研究発表の方法などの基礎的知識を教授し、学生個人あるいはグループで研究の過程を実際に体験し、論文の作成を行う。	

徳島文理大学人間福祉学部看護学科設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由

I 設置の経緯

- 1 本学園は創立者村崎サイが「女性の自立」を提唱し、明治 28（1895）年、徳島市に学園を創設、爾来、今日に至るまで国際的視野に立って、「自立協同」の建学精神のもと、有為の人材育成に努めてきた。（資料 1）
- 2 徳島地区の徳島キャンパスでは、昭和 36（1961）年、徳島女子短期大学家政科、昭和 41（1966）年、徳島女子大学家政学部を開設、その後、徳島文理大学短期大学部、徳島文理大学とそれぞれ改称し、現在に至っている。

現在、大学では、人間生活学部・薬学部・音楽学部・総合政策学部・人間福祉学部（平成 20 年 4 月より保健福祉学部に変更）・人間生活学専攻科・音楽専攻科の 5 学部（10 学科）2 専攻科、短期大学部では、生活科学科・保育科・言語コミュニケーション学科・音楽科・商科の 5 学科を設置している。
- 3 創立者の郷里香川地区の香川キャンパスでは、香川県民の熱心な要請もあり、昭和 58（1983）年 4 月、香川キャンパスを開設した。

現在、香川キャンパスでは、文学部・工学部・香川薬学部の 3 学部（11 学科）を設置している。
- 4 大学院については、徳島キャンパスでは、昭和 54（1979）年 4 月、私立大学として中・四国初めての薬学研究科薬学専攻修士課程を設置した。その後、順次大学院の設置を進め、現在では、薬学研究科薬学専攻博士（前・後期）課程、薬学研究科医療薬学専攻修士課程、人間生活学研究科博士（前期）課程として食物学専攻・生活環境情報学専攻・児童学専攻・心理学専攻（臨床心理学コース）、人間生活学研究科博士（後期）課程として人間生活学専攻、総合政策研究科地域公共政策専攻専門職学位課程を開設している。

香川キャンパスでは、現在、文学研究科地域文化専攻博士（前・後期）課程、工学研究科システム制御工学専攻・ナノ物質工学専攻のそれぞれに博士（前・後期）課程、香川薬学研究科創薬科学専攻博士（前・後期）課程を開設している。
- 5 この度、時代の要請に応え、地域の保健福祉の向上に資するため、「看護学科」を設置し、優れた看護職員の養成にあたりたいと考えている。
- 6 看護学科の概要は次のとおりとする。

学 部 名	学 科 名	修 業 年 限	入 学 定 員	収 容 定 員	学 位	開 設 の 時 期
人間福祉学部 (Faculty of Human Welfare)	看護学科 (Department of Nursing)	4 年	80 名	320 名	学士(看護学) (Bachelor of Nursing)	平成 20 年 4 月 1 日

看護師、保健師、助産師の国家試験受験資格取得を目指すのが、看護師及び保健師国家試験受験資格取得は全員（80 名）必須とし、助産師の国家試験受験資格は希望者に取得させるものとする。

助産師国家試験受験資格取得希望者は、内 20 名とし、第 2 学年に進級する際、各自の希望、適性、学業成績等を勘案して選抜する。

II 看護学科設置の趣旨及び必要性

1 設置の趣旨

近年、社会が著しく変化するなかで、ますます進む少子・高齢社会において、高福祉社会の実現を目指し、人々の健康の増進と生活の質的向上、保健医療の基盤の充実や保健福祉サービスの整備が不可欠となっているが、殊に、医療の高度化や多様化が進むなか、福祉分野と連携したケアの提供・実践に対する期待や要求は一段と高まっており、健康を支援する専門職の養成は大きな課題となっている。

こうした社会のニーズに応えるため、本学では、保健、福祉の分野の総合的教育研究を目指し、平成20年4月より、「人間福祉学部」の名称を「保健福祉学部」に改める（平成19年4月届出済）こととしたが、更に、生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する理解と深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い看護職員の養成を目指し、平成20年4月、保健福祉学部看護学科を設置したいと考えている。

2 本学の教育研究上の理念と目的

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を養成する。

3 本学看護教育の理念と教育目標

看護の教育理念は、生命に対して深い畏敬の念を抱き、豊かな人間性と良識を持ち、看護実践をとおして、積極的に社会に貢献できる人材を養成することにある。そのための教育目標を次のとおりとする。

- (1) 看護職員としての使命感と倫理観の高揚
- (2) 総合的な健康概念の培養
- (3) 基本的看護実践力の育成
- (4) 論理的思考力と問題解決能力の醸成
- (5) 看護の場におけるコミュニケーション能力の養成
- (6) 看護職員としての高度専門職業性の涵養

4 看護師、保健師、助産師の養成に対する基本的な考え方

学士課程における看護教育は、看護師、保健師、助産師に共通した看護学の基礎の上に、それぞれ、実際の場において十分役立つ実践力を養うプロセスであり、かつ、生涯教育を視野に入れた教育課程でなければならない。

5 看護学科の社会的・地域的必要性

(1) 徳島県の看護職員の養成状況

平成18年5月現在、徳島県の看護師養成施設は6校で、その入学定員は590名である。その内訳は、大学1校80名、専修学校4校と高等学校1校を併せて510名となっている。保健師養成施設は、大学1校と専修学校1校の2校で、その入学定員は、計105名、助産師養成施設は、大学1校と専門学校1校の2校で、その入学定員は、計35名である。（資料2）

本県における、看護職員養成の高等教育機関は1校のみであり、地域の医療を充実向上させ、健康な社会を実現していくためにも、高等教育機関における看護職員養成は急務である。

(2) 看護職員の需給の見通し

徳島県の看護職員の需給の見通しは、平成17年度厚生労働省による都道府県別の「看護職員需給調査」によると、本県では、平成18年から平成22年までの5年間の見通しを次のように予測している。

看護職員の需要数は、平成 18 年の 11,746 名から漸増し、平成 22 年には 12,301 名になっている。それに対して、供給数は、平成 18 年の 11,841 名から漸増し、平成 22 年には 12,382 名となっており、本県における看護職員数の需要と供給は、ほぼ見合ったものとなっている。

しかしながら、看護職員の退職率が約 7% であること、特に看護師の場合、一年以内の新卒看護師の離職率が高いこと（全国平均約 9.3%；日本看護協会 2004 年度 HP より）、医療報酬改定による看護師配置基準の引き上げが行われていること、更に、徳島県が従来より京阪神地区医療機関への看護師の供給源としての役割を果たしてきていることなどを考えると、徳島県のみならず、四国全体においても、供給が需要を満たし得ない状況にあるのは明白である。

6 卒業後の進路

看護師、保健師、助産師の資格を生かした進路について、具体的に考えられるものは、次のとおりである。

- 病院・診療所における看護業務
- 保健所、市町村保健センターにおける健康相談・保健管理・指導業務
- 助産師として、病院、地域社会、助産所、周産母子センター等における業務
- 民間企業の健康管理室での社員健康管理業務
- 訪問看護ステーション、在宅看護支援センターにおける訪問・巡回ケア等
- 老人保健施設、老人福祉施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウス、グループホーム等における高齢者等の健康管理、保健相談業務
- 保育園、学校内における乳幼児、児童生徒の健康管理
- 国際機関等での医療・保健支援業務、看護活動
- 大学院等の高等教育機関への進学

医療の高度化や多様化、福祉分野と連携したケアの提供・実践に対する期待や要求など、新たな需要が増加し、看護職員の活躍が必要とされる範囲は拡大する一方である。また、高齢社会になって、慢性疾患の増加が著しいこと、生活の質の向上を求める傾向が高まりつつあることなどから、在宅での介護・療養を希望する者が増加している。さらに、この度の基準看護制度の改定を考えると、本学科で育成する人材に対する需要は、更に多くなる。

III 学部、学科等の特色

1 本学看護学科の特色

看護学科においては、II の 3 に述べた本学看護教育の理念と教育目標に基づき、次のような特色を持った人材の育成を図る。

(1) 看護職員としての使命感や高邁な倫理観を備え、豊かな人間性を身につけた専門職を育成する。

看護職員は、さまざまな人に向き合う仕事であることから、柔軟に対応できる能力や豊かな人間性、高邁な倫理観を備えた人材養成が求められる。こうしたことから、感性を磨き、相手の立場に立って考えるとともに、看護職員の使命は、看護を必要とする者に、自立的精神を持たせ、前向きな姿勢に価値観を見いだせる気持ちを抱かせることにある、との自覚を持った人材を育む人間教育に力を入れたい。

このため、基礎分野（一般総合科目）の各科目に加えて、基礎看護学分野に「援助的人間関係論」を設け、相手を理解し相手の立場になって考えることの大切さを考えさせる。また、専門分野の臨床総合科目に「看護倫理学」を設け、生命倫理の大切さを看護の視点から学ばせる。

(2) 総合的な健康概念を持った専門職を養成する。

看護職員は、医療機関のみにとどまらず、地域や職場、学校、施設など、さまざまな場で必要とされるようになってきているが、いずれの場においても、何よりも総合的な健康概念をその基本に持って、対処することが求められる。

そうした健康概念を培養するために、「健康管理概論」「臨床薬理学」等において、総合的に健康について考えさせる。

(3) 基礎・基本を重視し、課題に対応できる看護職員としての実践力や論理的思考力、問題解決力を身につけ、優れたコミュニケーション能力を持った専門職を育成する。

医療の高度化、専門化が進むとともに、国民のニーズの多様化や医療の安全に対する関心の高まりなどが見られるなかで、医療現場での危機管理が重要になってきている。こうした場合、的確な判断力や論理的思考力、問題解決力、適切な実践力等が求められる。更に、医療の高度化、専門化が進むなかで、医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学技士等とのチーム医療体制が重視され、それぞれの専門性、的確な判断に基づく行動力、コミュニケーション能力が要求される。

専門分野の各科目分野で、確実な基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう、講義・演習・実習の場において、学生一人一人に目を配った指導に努める。

(4) 医療の高度化、専門化に対応し、自ら幅広く多様な情報を収集し、生涯をとおして学習し続ける専門職としての職業人を育成する。

これからの看護は、保健、医療、福祉との連携が欠かせない。看護職員は、保健、医療や福祉等に関する情報に精通するだけでなく、連携のために必要となる情報を、看護の立場から積極的に発信する役割を担っていく必要がある。そのためには、看護に関する情報やデータを有効に蓄積し、分析する手法を確立していなければならない。こうした状況を踏まえ、社会の変化が激しいなかで、生涯学習を続ける姿勢を保ち、努力を怠らない看護職員を育成する。

また、医療の高度化、専門化に伴い、将来、専門看護師、認定看護師として活動できるための基盤となる能力を身につけさせる。

(5) 地域の健康・福祉に貢献できる専門職を育成する。

徳島県の高齢化率は、平成17年の国勢調査によると、平成17年10月現在、24.4%で、全国8位の高率である。「平成18年度版厚生白書」によると、徳島県は2025年には高齢化率30%を超えるとされている。このような状況を考えると、在宅等で地域ケアを求める人々の割合が増加することが予想される。

また、徳島県では、糖尿病による死亡率が14年間連続全国第1位、肝臓癌による死亡率も高く、健康増進対策としての行動計画を策定し取り組んでいるところである。

こうした地域の実態に対応するためにも、専門分野の臨床総合科目に、「糖尿病看護論」を設け、糖尿病患者に対する看護の役割の理解を深めるとともに、医療や地域ケアを担っている病院や地方自治体、保健所と連携をとりながら、地域の健康に関わる課題を理解し、地域保健医療福祉サービスの向上に貢献できる地域看護の専門職を育成する。

2 総合大学としての特質を生かしたコメディカル教育の推進

幸い、本学はIで述べたように、複数の学部・学科、大学院を備えた総合大学で、従来から、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、臨床工学技士、音楽療法士、精神保健福祉士等の養成課程を置き、コメディカル教育の推進に努めてきた。この特質を生かし、実践科学としての看護教育を推進する上においても、食物栄養学との連携による「健康管理概論」（生活習慣病の一次予防における栄養と運動の役割）、医療薬学との連携による「臨床薬理学」（薬物の効用と副作用）、心理

学との連携による「臨床心理概論」（患者と家族に関わる際の臨床心理的配慮の意義）を開講し、講義終了後、それぞれの科目に関する学科の学生と看護学科の学生による意見交換、討論を演習形式で実施する。また、臨床工学との連携として、臨床工学科の教員（田仲浩平教授）による高度医療機器に関する講義及び演習を、第4学年の夏季休業中に3コマ(2コマは講義、1コマは演習)程度実施する。さらにこれらの学科の学生と看護学科の学生が、年1～2回シンポジウムを実施することを前提に、当該学科の教員との研修会や意見交換等を定期的に行う。

このように、本学では高等教育機関として、充実した教育条件のもとで、社会的に要請されている実践的、創造的、人間的な看護力を有する、質的に高い看護師、保健師、助産師の養成を行うことができると考えている。

3 社会の要請に応じた看護教育の推進

現今の医療では、チーム医療体制と在宅治療体制、周産期医療体制の整備が特に求められており、このために、チーム医療を担える高度の専門的知識と技術を習得した看護師、病院治療と在宅治療の調整役を果たせる看護師、保健師、周産期看護に秀でた助産師の養成は不可欠である。このための教育プログラムとして、専門分野の臨床総合科目の中に、「在宅医療論」、「チーム医療論」、助産看護学の中に、「周産期ケア論」を設けている。

さらに、将来的に、特定分野に秀でた専門看護師の養成を視野に入れた教員構成、教育施設を整備し、医師と両輪となって医療を担える看護師、助産師の養成を目指していきたい。